

## 小野地区タウンミーティング(要約)

平成26年8月31日(日曜日)

【市長】 皆さんこんにちは。今日は夏休み最後の日曜日です。また24時間テレビが土日に行われていることもありまして、小野地区では毎年この24時間テレビにちなんだスポーツイベントが行われておりまして、私もこのタウンミーティングの後にソフトボールに参加をさせていただくことになっておりますけれども、皆様も何かとお忙しかったのではないかと思います。今日はこのように大勢の方にお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。このタウンミーティングの開催にあたりましては小野地域連絡協議会の会長をはじめ、役員の皆様のご協力をいただきました。本当にありがとうございます。さて、このタウンミーティングですけれども、私が市長に就任をさせていただいてから始めさせていただきました。松山市は旧の北条市と旧の中島町を合わせて41地区に分かれます。市役所で待っているのではなくて、我々から各地区に出向かせていただいて、それぞれの地区でお困りの点もあるでしょうし、課題もあるでしょうし、逆に魅力も教えていただいて、できることからできるだけ早く市政に反映をさせていこうということでタウンミーティングを始めさせていただきました。おかげさまで2年2カ月で41地区のすべてを回りきることができました。私はこのタウンミーティングをパフォーマンスやガス抜きのためにやっているのではありません。皆さんご存知のように私は一市民からこの立場をいただいた人間です。私らから出向かせていただいてもっと市民の皆さんと行政の距離を短くしたいという思いで始めさせていただきました。ですので、今、2巡目に入らせていただいております。また松山市版のタウンミーティングの特徴ですが、聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにはしないのが特徴でございます。できるだけここで皆さんからのご意見に対してはお答えをいたしますけれども、中には国と関係をする案件や県と関係をする案件、財政的な問題があるものはいいかげんな答えをして帰るわけにはまいりませんので、いったん持ち帰らせていただいて、庁内で検討をさせていただいて1カ月を目途に必ず返事をするのがこの松山版のタウンミーティングの特徴でございます。今日は小学校や中学校の皆さんも来られていますけれども、さすがに90分間を緊張状態だと疲れてしまいますので、ざっくばらんに前向きな話し合いができればと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 私は、1番東の小野公民館の大尺寺分館の分館長をやっております。実はお願いがあってやってきたんですけども、今、県道を利用して

いる小学生が29名いるんです。県道の334号線で1番私らが長年問題にしているのが、オオノ開発の出入口です。この出入口は約87メートルぐらいあります。私が見たところでは大型車両が50台、小型もありますので全部で100台ぐらい出入りしています。県道と歩道の間の境界ブロックが、6年から7年になると思うんですけど設置されていないんです。何回もお願いしているんですけどなかなかできていない。PTA会長も努力はしていただいているのですが、全然前に進まない。子どもさんが朝の通学の時間、非常に危ないんです。だからぜひ1日も早く、県との関係があると思いますけど改善・設置をお願いいたします。私が聞いている範囲では、出入口は一般的には12メートルです。そう聞いておりますので、ぜひやっていただきたいと思って、見られていないとは思いますが、朝の6時半から7時半のあそこの出入口の車を見ていただいたら、いかに危険な場所かがわかると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

【市長】 まず、皆さんに申し上げておきます。今、おっしゃったのは県道で県の話ですけれど、皆さんどこが県道でどこが国道で、どこが市道でどこが私道かわからないですよ。川も国が管理しているところと、県が管理しているところと市が管理しているところがあるんですけど、皆さんわからないですよ。遠慮なくおっしゃってください。我々は「それは県の話ですから県に言ってください」とか「それは警察の話ですから警察に言ってください」と振らないですから、我々からお話をするよう持っていくしますので、安心して言うていただけたらと思います。

【生涯学習政策課長】 ご質問ご意見ありがとうございます。教育委員会、生涯学習政策課の津田と申します。今、お話のありました県道334号線の件でございますけれども、確かにお話をいただいております、愛媛県の中予地方局に確認したところ、歩道等の設置を現在考えているということでございます。詳しくいつまでというお話は詰められていないところがありますので、引き続きこの情報をどうなるかをお知らせできればと思います。よろしく申し上げます。

【市長】 今、歩道の計画があつて関係の方と交渉中ということだったですね。

【男性】 それで、もう6年も7年もずっとなんです。一向に進まないんですよ。

【市長】 これは私から、小学生さんの命を守る交通安全の取り組みとして推進できないかを、市がもうちょっと踏み込んでやるようにいたします。

【男性】 お願いします。

【小学生】 私は公園でボール遊びができる広いところがあるのに、ボー

ル遊びを禁止されているので、ボール遊びができるようにしたいと思いました。

【都市政策課長】 都市政策課川口です。ご意見いただきましてありがとうございます。現在、地域の皆さんの身近な街区公園という公園では十分に広さがないことや小さいお子さんとかお年寄りの方など、色んな方が利用するので原則的にはボール遊びが危険ということで禁止をさせていただいております。このタウンミーティングを通じて色んな地区の方からボール遊びについて賛成のご意見とか、反対のご意見をいろいろいただいておりますけれども、公園でボール遊びをするためには、公園を管理していただいています地元の管理協力会の皆さんや町内会とか、子ども会や周辺のお住いの方などのご理解が必要だと思っております。また、皆さんでボール遊びのルールやマナーの徹底、それらの周知を含んで取り組んでいただく必要があると思っております。松山市では平成18年度から地域のボール遊びのルールづくり、マナーの徹底に取り組んでいただける公園を対象にボール遊びができる公園づくりを実施しております。これまでに毎年1公園ずつ、9つの公園でボール遊びができる公園を整備しております。実は第1号の公園がこの地区の平井公園でございまして、ボール遊びができる公園として皆さんにご利用いただいております。この小野地区には現在16の公園がありまして、平井公園以外の公園ではボール遊びができない状況ですけれども、具体的にご要望の公園があれば、松山市から地元の方にご連絡して、可能性についていろいろ協議をさせていただきますので、この後でどの公園でしたいというのがありましたら教えてください。

【市長】 ご意見ありがとうございました。公園のことについて補足で説明をさせていただきます。松山市内には326の公園があるのですが、2通りの意見があるんです。今、松山市としてはできるだけボール遊びができる公園を増やしたいということで、1年に1カ所のペースですけれども、公園を管理してくださっている公園管理協力会の方々のご理解と近所の方のご理解もいただきながらボール遊びができる公園を増やしています。私が小さいころは、空き地がいっぱいあって、その空き地でボール遊びをすることができましたけれども、今はなかなかそういう状況ではなくなっている。ボール遊びができる公園を増やしているところです。松山市役所は市長への直接のメール制度を設けていまして、市民の方からのご意見を直接いただきます。公園のそばに住んでいる女子中学生からのメールだったんですが、「市長さん、何とかしてください。私は公園のすぐそばに住んでいるんですけれども、ボールがうちの家に飛び込んで家に当るんです。それと、もう1つ嫌なのが勝手に家に入ってきてボールを取っていかれる

んです。それが嫌なんです。何とかしてください。」というご意見いただいて、それは確かに嫌だと思えます。一方でボール遊びがしたいという意見。そういう回りの方のご意見もある。公園デビューという言葉もありますが、小さいお子さんを公園に連れて行って、中にあんまり配慮してくれない人がボール遊びを激しくしていたら、子どもたちが危ないという意見を調整しないとイケないので、今、ボール遊びのできる公園をご理解いただきながら増やしているかたちです。そんな流れがあるんだということを覚えていてください。

【男性】 日尾グリーンハイツ内に日尾中央公園があるのですが、以前に県から許可がおりて開発業者が開発されました。今はおそらく公園は松山市が許可を出しているということでもありますけれども、以前開発されていた関係上、地権の問題で公園の整備が行き届かない現実がありまして、緑地帯としてかなり木は植わっているんですけど、その木が育ってきて整備するにもお金がかかり、剪定するにも大変という現実があります。とりあえず道路関係は松山市に移行させていただいて、松山市の道路になったんですけれども、緑地帯について、まだ地権者から手放していただかず、何度かご相談はさせていただいたんですけど、どう対応していけばいいのか我々としても苦勞をしているところでございます。

【都市政策課長】 都市政策課でございます。ご意見いただきましてありがとうございます。この公園は先日見させていただきました。開発工事で設置された公園の市への移管についてですが、都市計画法施行令という法律で、現在は開發行爲を行った場合に、すべての公園は松山市に寄付をしていただく条件で許可をさせていただいております。平成11年度からこういった取り組みをしておりますけれども、それ以前の公園は、そういうことがなかったために現在も地元の方とか開発業者が管理されている公園がございます。寄付していただく場合には地権者の方とか公園の施設と所有者の方が申し入れをいただきましたら受け入れは可能ですけれども、いろいろな条件がございますので、例えば管理は地元の方にお願ひしますので、今後も適切に維持管理ができるように直していただくとか、地元の管理協力会を立ち上げていただくとか、色んな条件がございますので、ご相談いただいたらと思います。また、11年以前の開發行爲によって開発された公園は、決定するときには公園の管理者の方に適切に公園を管理することが義務づけられておりますので、松山市からも、今の持ち主の方に適切に維持管理をしていただくよう指導をすることもできます。公園を市に寄付してくださいという勧告・指導もできますので、また詳しい状況を教えていただいたらと思いますのでよろしくお願ひします。

【市長】 よく各地区のタウンミーティングで空き家の話が出てきます。ちょっと関連しますのでお話したいと思います。例えば空き家があって、崩れそうな空き家を見かけることが増えてきましたけれど、空き屋対策は全国で悩みなんです。どうしてかというと空き家は本来は個人の持ち物なので、危険となっている状態で市役所が直すと、皆様の税金を使ってなぜ個人の財産を治すのという話になるので難しいところがあって、今、全国でどうするかをやっているところですけど、松山市役所もワーキンググループをつくりまして、空き家対策に力を入れているところです。皆さんが空き家を見つけて、危ないから何とかしてと持ち主さんになかなか言いにくいですね。そういうときは市役所に言っていただいたら市役所から住民の方が危険を感じているので直してくださいと指導をすることもできます。どうせ市役所に言っても変わらないとか、冒頭申し上げたように行政と皆さんの距離が遠くなるよりは近くしたほうが、敷居を低くしたほうがよろしいので、皆さん言っていただいて、「そのやり方はできないですけど、こういうやり方はできるんですよ。」という情報をお伝えすることもできますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 お世話になっております。県道の334号線。小野中学校の南側の道路が非常に危ないです。小野支所から西側の500メートル間では毎年事故があるんです。ここに信号機をつけてくれと南署に言ったんですけど、予算がないからだめ。それで終わっていたんですけども、ここは通学路じゃないですけど、頻繁に小学校・中学校が通るところで非常に危ない。私も毎日、前が田んぼですから監視しているんですけども非常に危ない。音がして出ていったら事故という状況なので、押しボタン式でもいいですから簡単な信号機がつけばなど。一昨年にはカーブミラーをつけてもらったんです。それから横断歩行旗がつき、いろいろしたんですけど信号がないと危ない。事故を起こした運転手の4人ほど確認したんですけど、前が見えなかったと。見えなかったということはスピードの出しすぎじゃないかと思う。そこらで徐行する何かがあれば安全に走れるんじゃないかと思います。そこをよろしくお願いします。

【都市政策課長】 都市政策課でございます。ご意見ありがとうございます。信号の管轄は警察になっておりまして、松山市からも今日いただいたご意見を警察に連絡をさせていただきますけれども、基本的には信号とか規制のかかるものについては地域の方全体のご意見として、改めて警察にご連絡していただく必要があると思います。松山市からも連絡をさせていただきますのでよろしくお願いたします。

【市長】 今の補足ですが、地域の総意は公園のときと同じ話で、信号が

できると安全度は高まるんですけど、逆に止まってもらわないといけない。それを地域の方々が納得をしてくれますかというので、地域として要望を上げてほしいと警察の方は言われるようです。私どもとしても警察に伝えておきますのでお願いします。

【男性】 耐震対策の推進について提案・要望をさせていただきます。南海トラフの巨大地震は近い将来に必ず発生をする。大きな被害が想定をされております。そのための対策として揺れへの対策や地震・火災の対策とか避難所の備蓄とかいろいろやらないといけないことがいっぱいあると思いますが、経費もかなりかかると思います。まず、1番に考えないといけない急ぐ対策は、家具の固定と家屋の倒壊によって人が閉じ込められたままで圧死したり溺死したり焼死したりする被害を極力最小限にとどめることが急がれる対策ではないかと思います。そのための対策ですけど、家具の固定化は各家庭が自主的に取り組むべき対策です。ただ、被害を最小限にするためには市にも実施率の向上に向けて色々な取り組みを要望したいと考えております。1点目の家屋の耐震改修ですけど、これについても市から耐震診断とか耐震改修で補助とかいろいろやられていると思いますが、残念ながら耐震改修はあまり進んでいるようには聞いておりません。松山市でやられている耐震改修は全体を補強をしないといけないので、かなり費用もかかるということですが、一方、ほかの自治体では簡易に改修できる耐震シェルターとか耐震カプセルとか簡易なやり方もあります。一応、前にも市長へメールも出したんですけど、部分的にやっても完全じゃないというご回答をいただいたんですけど、費用対効果を考えた場合に完全な改修の実施が少ないのであれば、耐震シェルターとか完全じゃないといっても、ある程度の効果が期待できて安くできますので、どちらかの一方に決めてしまえということではないんですけど、個人の家庭の事情によって「うちは家の全部を改修したい。」「いや、うちはお金がないから寝室だけをつぶれないようにしたい。」と住民が選択できることも人命の救助を考えた場合には一定の効果は期待できるんじゃないかと思っておりますので、そういうやり方もご検討いただきたいと思っております。

【市長】 はい、わかりました。防災に関心を持っていただいて本当にありがとうございます。私から全体的なお話をさせていただいて、耐震診断のことは補足をお願いします。皆様のご自宅に全戸配布なので、すべての家に配らせていただきました防災マップがあります。平成23年に配らせていただいた防災マップなので絶対に皆様の家にあるはずなんです。私、去年の夏に防災士の資格を取らせていただきました。知識と意識と言っているんですけども、実は私は東日本大震災のときに東京に出張をしてい

まして、帰宅難民になり羽田空港のロビーに地べたで一夜を明かす経験をさせていただきました。ひとしおの思いがありまして、防災士の資格を取ることによって知識が増える、意識も向上するので松山の防災に生かしていこうと防災士の資格をとらせていただいたのですが、皆さんも家に帰ったら防災マップをご覧になってください。まず1ページです。何らかの災害に遭遇すると思っている人は75パーセント、約8割の人が何らかの災害に遭遇するんじゃないかなと思っているんです。でも、家具の固定をしている人は20パーセントに満たないんです。8割と2割の差です。私、防災士の資格を取らせていただいたときに勉強したのですが、皆さんは家のたんすを1人で持ち上げることができますか。色んなものが入っていますよね。そのたんすを固定していなかったら震度7の地震が起こった場合にたんすが飛んでくるんです。飛んできて当たりどころが悪かったら死にます。当たらなくても倒れてきたら逃げ場が失われます。ですので、絶対に家具の固定をしていただきたいと思います。家具固定の道具はホームセンターなどに売っておりますので、できるだけ早く家具固定はしていただきたいと思います。最近のアンケートを取りましたら、30パーセントを超える方が家具固定をしてくださっている方になっているので、かなり防災意識が上がってきていると思うのですが、例えば沿岸部の地図には蛍光色で浸水地域を色づけているのですが、実はこの防災マップは愛媛大学に防災センターがありまして、矢田部先生という日本でも權威の先生がいらっしゃるんですが、そういう方々と話をさせていただいて、色も派手かましい色をつけて目立つようにしたかったのですが、派手かましい色をつけると逆に目の不自由な方からすると見にくいというお声をいただいて、色まで配慮した防災マップです。この中には土砂災害・津波・地震、色んなことに対応する策が書いてありますので、どうぞ皆さん一読をしていただけたらと思います。行政としてもしっかりと防災に取り組んでいきますけれども、すぐに消防隊員が駆けつけられたらいいですけれども、大きな災害が起こってしまった際には現実的には難しい。皆さんが防災意識を持っているのと持っていないのでは大きな違いがありますので、まずは防災マップをご一読いただけたらと思います。今年度中には新たなものをお配りさせていただきますので、各ご家庭でご一読をしていただければと思います。

**【都市政策課長】** 都市政策課でございます。ご意見ありがとうございます。松山市ではご指摘がありました家屋の一部を補強する方法とか耐震シェルターの設置は一定の効果はありますけれども、建物全体を耐震する方法と比べますと効果が少ないと考えておりまして、耐震化の向上にはつながらないと思っております。まずは、現在行っております耐震改修などの

補助事業の促進に努めていきたいと考えております。その中で今年度からは耐震改修工事の補助の限度額を昨年度からの60万円から90万円に30万円の増額をいたしました。それと松山市が独自で行っておりますスマイルリフォーム補助金制度がございまして、この両方の制度を併せて使うことで10万円の加算措置を受けられるなどの補助制度の拡充を図っております。このスマイルリフォーム補助金を利用いたしますと、先ほどご紹介のありました家屋の一部の補強とか耐震シェルターなどにもご利用いただくことができますので、そちらの選択肢も選んでいただければと思います。

【市長】 合計100万円まで補助が出るかたちになったんですね。

【都市政策課長】 今後も国や県と支援制度とか他市の状況なども参考にしながら、さらなる効果的な耐震策を検討していきたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

【市長】 これからも松山市としてさまざま研究を重ねながら、防災を高めていきたいと思っておりますので、よろしく願いします。

【男性】 杓子定規でなくてよその自治体の動きも見ながらご検討をお願いしたいと思っております。

【市長】 もちろんです。危機管理担当部も置いていますので、他市の状況も見ながら、そして財政的なものも見ながら判断をさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【小学生】 道路があるんですけど、県道とか国道とかは新品できれいですけど、小さくなって細くなっていくと、へこんでいるところや、でこぼこしているところがあって、車を運転している運転手さんや子どもたちのつまづきの原因になるので、埋めるだけでもいいので、直してほしいと思いました。

【都市政策課長】 都市政策課でございまして。ご意見ありがとうございます。松山市は2車線の大きい道路とか1車線の道路を合わせて1,700キロ以上の道路がございまして。それを現在、3台のパトロールカーで毎日パトロールをしているんですけども、なかなかそれだけではすぐに危ない状況の道路を発見することができませんので、場所等をまた詳しく教えていただいたら、すぐに対応させていただきます。今、気づかれていますところがありましたら、この後にまた教えてください。すぐに舗装させていただきますので、よろしく願いします。

【男性】 私、駄場地区の分館長をやっております。私ども駄場地区に今年から葉佐池古墳が国指定の史跡になりまして、土日だけしか今は開いていないのですが、今後どのような方向で葉佐池古墳の施設の入場者を増やし



ていく方向に考えているのか、それとも現状のままでいくのかというのが1つと、葉佐池古墳に関してもう1つあるのですが、先ほど話が出ました私ども駄場地区では一時避難場所を小野谷公園にしておりますが、現在、葉佐池古墳の前の小山公園を一時避難場所に変えているんですが、例えば一時避難したときにたまたま豪雨をともなっているとか大雨のときに、難しいかもしれないですけど葉佐池古墳の展示館を一時的に開放できればいいんじゃないかと思ったんですが、その2点です。

【生涯学習政策課長】 ご質問、ご意見ありがとうございます。葉佐池古墳であります、かなり長い時間を要しましたが皆様のおかげを持ちまして今年オープンしたところでございます。今、お話いただきましたとおり、当面の間は土曜日・日曜日でオープンして説明等の時間を設けているのですが、平日にご覧になりたい方がいらっしゃいましたら、文化財課も受け入れ体制を整えておりますので対応させていただきたいと聞いております。事前にご連絡いただきましたら、例えば学校の授業で使いますとか、公民館・分館等で見学したいという話がありましたら、それは取り継ぐことができると思います。今、いただきました一時避難等の場所に使えるかでございますけれども、消防局と担当部局で現場を確認させていただきまして、可能性があるか研究したいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【市長】 消防と教育で縦割りにならないように連携して話をさせていただきます。皆さんに逆に聞きたいのですが、地元の小野の皆さんは葉佐池古墳の新しくできた施設に行かれましたか？行かれた方は手を挙げていただけますか？3割、4割というところですかね。ありがとうございます。本当にいい施設ができましたので、地元の方があそこを誇っていただくことがやっぱり大事だと思います。行っていただいたら古墳は昔の方のお墓ですから、こんな立派なお墓をよくつくったものだなと、よっぽど立派な人だったんだろうなというのをお感じいただけたらと思います。上に登ると小野のきれいな風景を見ることができ、私は足が痛いから上まで上がるのはちょっとという方は、そういう方のためにカメラが設置されておりまして、中の様子をリモートコントロールで見ることができる装置も備えておりますので、展示室を見ていただいたらいろいろ資料も飾ってわかりやすく説明されていますので、やはり小野の皆さんが行っていただく、小野のものを誇りにしていただくことはすごく大事です。松山市は41地区あるんですと申し上げましたが、小野の魅力を一番知っているのは誰かといったら小野の人ですよね。その人たちが地元のことを誇りにしてもらおう。また、愛着を持ってもらうことが大事です。ほかの地区の人があれだ

けの施設ができて小野いいねと言われると思いますけども、地元の方々が地元を愛することが1番大事だと思いますので、100パーセントの方が古墳に行っていたらのように葉佐池古墳は素晴らしいところですから、また見ていただいたらと思います。平日でも電話していただいたら開けますので遠慮なく言ってもらったらと思います。

【男性】 私、土地改良区のお世話をしています。農家も高齢化して百姓をする人も減ってきて後継者もいない。そういう中で、農道とか水路とか色んな整備をしないといけないので取り組んでいるんですが、地元負担金があるんです。市道とか国道は地元の負担金が要らないですよね。けれど、農業の農道だけ地元負担金を出さないといけないんです。それも構わないんですけど、5年くらい前は農振・農用地が2パーセントの負担だったんです。調整区域内は5パーセント、それから市街化区域内は10パーセントという負担でそれぞれ取り組んできていたんですが、5年くらい前に改正をして農振・農用地は水路もすべて入れて以前は2パーセントだったのが1パーセントになったんです。調整区域内は5パーセントだったのが今は8パーセントで、協会の負担金が要るから約10パーセントいるんです。市街化区域内は10パーセントだったのが20パーセント要るんです。整備はしたいのですが、地元負担があるのでなかなか取り組みにくいので、できれば負担率を下げたいというお願いです。窓口にも言っているのですが、なかなか前向いていかないこととか、小野には調整区域内には甲種農地という土地が平井と水泥にあるんですが、ここで農業をやりたいといっても農業の補助金は甲種農地にもつかない。調整区域も一緒ですからつかないんです。その上に、開発しようと思っても調整区域ももちろんですが、甲種農地になったら農振・農用地よりも厳しい。こんなことになっているので農業の整備もできないし、都市計画の開発もできない。こういう中では農家の人もやっていけない状況ですけど、事業の負担を何とか検討してもらいたいと思います。

【都市ブランド戦略課長】 都市ブランド戦略課の矢野でございます。ご質問ありがとうございます。土地改良事業は先ほどおっしゃられましたように地元負担が存在するので、負担をなくして道路のようにといいことでもございますけれども、農業の振興を図る上で、受益される方の一定のご負担をいただかないと、すべて税金でまかなっていくのは難しい状況にあることはご理解をいただきたいと思います。その負担率につきましては、各地こうして回っております中でいろいろご要望をいただいておりますので、担当課は農林土木課でございますけれども、そちらで検討もしているところでございます。農振・農用ということで1番に農業を振興するべ

きところについては1パーセントという低い率にしておりますので、そういった工事をする際の工事費を削減する設計などを見直すことで負担の軽減を図りたいと思っておりますので、ぜひご理解をいただきたいと思っております。それから甲種農地とか農地の地区の指定につきましても、十分ご理解をいただいていると思っておりますけれども、法律の中で決められた地域指定がございますので、転用がしがたいとかありますけれども、一方で制約がある分、補助制度が適用をしやすいとかもありますので、総合的に立場で違う面もあると思っておりますけれども、ご理解をいただけたらと思っております。

【男性】 ゼロにしてくださいと言っているのではないです。前の負担率ぐらいに下げただけでしたら事業に取り組みやすいということです。そこをもう1回検討をしていただきたいと思っております。

【都市ブランド戦略課長】 はい、検討させていただきます。

【男性】 自主防災組織でございます。よろしく申し上げます。皆さんもご存知の広島土砂災害。小野地区におきましても考えられる災害は南海トラフ大地震であったり大雨であったり、土砂災害それから土地の液状化、ため池の決壊などが懸念されるわけがございますけれども、自主防災組織も色んな訓練等を繰り広げております。ただ、訓練の資金の源である活性化モデル事業は、前回の回答にもございましたがさらなる充実と、できましたら地元負担金が少なければいいなど。いろいろと資金の捻出を考えておりますが、なかなかうまくいかないところがございます。活性化モデルの充実をよろしく願います。それから先ほど申し上げました土地の液状化に関連しまして、小野地区にはため池が約30ほどございます。この狭い中に30もあるんです。その中で改修工事が進んでいないのが5つほどあると認識しております。決壊をすると小野地区は全部坂になっておりますので、水が流れてきます。できましたら早くの改修をよろしく願います。以上でございます。

【消防局総務課長】 消防局総務課の中矢でございます。ご質問ありがとうございます。小野地区の自主防災組織は松山市の自主防災組織の中でも特に熱心に活動をしていただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。それと小野地区の自主防災組織は昨年度は59回の研修会や訓練を実施していただいて、通算で1,200名の方に訓練に参加していただいております。先ほどおっしゃられました活性化モデル事業についても、3年連続で提案をいただきまして、さまざまな提案型事業を展開していただいております。このような事業をぜひ松山市としても支援していきたいと考えております。負担金の問題について、ほかのタウンミーティングでもお話も聞きまして、なるべく地元負担をかけない方法を含めて今、

検討をしております。来年もより有効な支援が継続的にできるように検討していきたいと考えておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

【都市ブランド戦略課長】 都市ブランド戦略課でございます。一般土地改良事業の中で水泥古池とか大池は委託を完了していると思えますけれども、未施工のため池もいくつか残っていると思えます。できるだけ早期に対応してまいりたいと思えますけれども、こういった各地でご要望をいただいている未施工の土地改良事業が市内各所にたくさんございますので、優先順位を考えながらやっておりますのでご理解をいただきたいと思えます。

【市長】 市長の立場をいただいて41地区に行っていますけれども、小野は元気なところですよ。スポーツも盛んだし、先ほどお話していただいた防災の活動も盛んですし、秋が来たら村芝居があります。小野は色んな活動が盛んで地域のつながりがある素晴らしいところだと思います。これは小野の皆さんが十分に誇れることなのでそれは知っていてほしいと思えます。

【男性】 平井町で民生委員をしております、そして土地改良区のお世話もさせてもらっております。小野地区の農業が衰退をしている現状です。あちこちを見ましても荒地が増えてまいりました。改良区としても持ち主に対して喚起をして管理をしてくださいと言っているのですが、どの地区でもそうだと思うんですが、地元の方が所有をしていないんです。例えば久米の方が土地を持っている。だから徹底ができていない状況なので、こういうところについて市の農業委員会から徹底する方法はないのかご検討をお願いしたいと思えます。

【都市ブランド戦略課長】 都市ブランド戦略課でございます。ご質問ありがとうございます。耕作条件が悪い農地を中心に耕作放棄地が増えてきています。松山市では、これまで国の事業である耕作放棄地の再生利用緊急対策交付金を活用をし、国の事業をする場合には市で上乗せ補助をして、土づくりや雑木の除去などに対する支援を実施し、耕作放棄地再生に取り組んでいます。また、耕作放棄地を未然に防ぐため中山間地域等直接支払制度を利用し、地域で共同し水路や農道の管理活動をする際の支援を行うなど、耕作放棄地の発生防止に努めています。なお、他地域の所有者については、現在、松山市は「人・農地プラン」の作成を進めており、担い手に農地をどう集約するか等についてプラン作成をする中で、一緒に考えていきたいと思えます。また、今年度からは、新たに農地の貸借を行う公的機関である農地中間管理機構もできましたので、この事業も活用しながら

耕作放棄地が発生しないような取り組みをしていきたいと思います。

【市長】 気持ちは一緒だと思います。我々も農業に対して大きく2つの悩みがありまして、1つは耕作放棄地対策です。私自身も実家の北条で農業体験があります。やはり農地を荒らしてしまうとそこから虫もはびこってきちんと管理されている農地に飛んでいってしまいますので、耕作放棄地になってしまうと迷惑をかけてしまいます。また、有害鳥獣対策もやっていく。松山で汗水流してつくっている農産物は高く扱ってもらうように私もセールスに行くようにしているんですけども、気持ちは同じだと思うんですよね。耕作放棄地も何とかしたい。国全体としても何とかしたいので、国の制度もつくり県の制度もつくり、市の制度もつくりというかたちですけども、これはみんなの願い、何とかしたいとやっているところだと思いますので、またご協力をいただいたらと思います。

【男性】 小野地区で少年育成委員と先ほど市長がおっしゃられました村芝居の役者をやっております。実は7月の夏休みに入って、子どもが行方不明になった事案がありました。見つかり保護できまして事無きを得たんですけども、情報を知ることになったのは、各分館で分館放送をされていたことです。それで、色んな分館でされているということで、これはただ事ではないと私の個人のネットワークで地区の育成支援の支部長さん、それから小野公安連絡協議会の会長さん、小中のPTAの会長さん、そこから地域の小学校の先生が聞いて小学校の職員室を対策本部にして、捜して見つかったわけですけども、1つ疑問に思うのは、なぜ支援委員の支部長さんや公安連絡協議会の会長が知る前に分館放送になったのか。保護者の方に見つかった後に聞いてみたら、夏休みだったし晚遅かったので小学校にかけても連絡がとれなかったということで、警察にかけられたそうです。警察からどういうかたちで分館放送になったのかは定かではないんですが、防災のネットワークもあるところですから、警察に話がいった場合、当然小学校にも保護者の方は連絡をされると思うんです。小学校から聞くと警察にも相談して必要であれば連絡されることから、上から話が行くと思うんですけども、そこで1番大事なのはその分館放送を聞いて、小野の消防分団の方が個人的に聞かれて何とかしなければいけないと思っていたんですけども、消防分団は上からの確たる指令がないと動けなかったそうです。本当は消防分団の方が危険箇所を探していただくほうが有効的だと思うんです。事なきを得て翌日、消防分団の分団長からまだ見つかっていないのかと連絡があって、「いや、昨夜見つかったよ。本当によかった」と言ったら、それは私にも連絡をちょうだいと、全然知らなかったと。分館放送が流れたままで、見つかりましたという放送がなかつ



で、私から南署に伝えておこうと思います。

【小学生】 学校にエアコンをつけてほしいんですけど、保健室と図書室と校長室と職員室にエアコンがついているんですけど、保健室は病人が看護するのでいいんですけど、職員室についているんだったら教室にもついてもいいんじゃないかなと思うんですけど、各教室に全部つけるとなると費用がたくさんかかるので、廊下だけでもつけていただければなと思います。

【市長】 はい、私から述べさせていただきます。実は就任したころは松山市の小学校や中学校のエアコンの整備はどちらかというところまでは必要がないと思っておりました。といいますのが、我々の時代は予想最高気温が30度ぐらいで、暑いから夏休みがあるんだ、暑いときは学校はお休みにしてということだったんですけども、今は予想最高気温が35度や36度といった日が頻発するようになりました。昔に比べて温度は上がってきております。東日本大震災が起こり阪神大震災も起こりましたので、将来の子宝が長い時間を過ごす小中学校の耐震化を急いでやりましょう。避難場所になる体育館はできていたんですけども、私が就任したときには平成33年度までに松山市の小学校・中学校の校舎の耐震化が終了予定だったんですけど、まさに有効な公共工事だということで、思い切って前倒しをして平成29年度完了予定で進めております。小中学校の耐震化が一定の目途が立ったので、次の段階へと思っているんですけども、広島での痛ましい災害が起こって小学校や中学校に避難をして来られます。おじいちゃん、おばあちゃんが和式のトイレだと行きにくいので、水分を取るのを控える事例もございます。そうすると逆に体調を悪くすることもあります。やはり子どもたちが学ぶ場でありまして、避難をしてくる場所でもありますので、総合的に検討したいと思います。

【男性】 資源ごみの現在の活用の状況についてお尋ねしたいと思います。私どもの町では、県道のところにごみの集積場がありまして、特にプラスチックごみは分別が間違っていて回収できないものが、多いときだと5つ6つあるんです。担当者が順番にこれを選別し直しをして、再度出す作業をしているわけですが、コンビニの弁当箱とかは食べ残しがあるものは生ごみにして、そして洗って回収日に出す作業をしております。人が出したものを選別し直すのは、非常に嫌な思いをしながらやっているのですが、県道沿いにあります関係で、車の通りがかりにはほかの地区の方が放り込んでいくことも見受けられまして、そのあたりは困ったものだと思っているんですが、洗い直しをして、現在きれいにやっているわけですが、聞くところによると、これを焼却しているということであれば、処理の仕方をも

うちちょっと緩和していただいてもいいんじゃないかなという気もするんです。そこらの再生の状況について、現状の説明をいただきたいと思います。

**【環境部長】** 環境部長の大野と申します。ご質問ありがとうございます。松山市では、今、循環型社会の構築ということで一生懸命リサイクルをしているわけですが、リサイクルをしている品としては、ペットボトルとかプラスチック製容器包装、紙類、金物ガラスの4種類について特にやっております。今、どうごみが流れているかと申しますと、プラスチック製容器包装は、松山容器さんとか南海産業さんで収集をしていただいた後、容器包装のリサイクルルートに乗りまして、今は広島のリサイクルセンターに流れていっております。そして、このリサイクルについては、マテリアルリサイクルと、ケミカルリサイクルと、サーマルリサイクルといまして、マテリアルリサイクルは、その素材そのものをいかしてリサイクルする方法、ケミカルリサイクルは、化学薬品で溶かして新たなものにする方法、サーマルリサイクルは燃やして助燃材として使うという方法があるのですが、広島のリサイクルセンターでは、それを細かく砕いて、材料として使ってプランターとかパレットとか車止めとか、そういう新たなものをつくっております。

**【市長】** 洗わなきゃいけないのかについてはどうですか。

**【環境部長】** 洗うことにつきましては、その素材を利用するものですから、色んなものが付着しておりますと新たなものをつくるのに困ってしまいます。リサイクルに流すときにベールという大きな塊で出すんですけれども、そのベールの検査があります。AからDまでランクづけがされるんですけれども、松山市は皆様のおかげでAランクで検査も合格しております。この検査に合格しなければリサイクルルートに乗れなくなって、ごみを引き取ってもらえなくなることになりますので、ぜひとも皆様のご協力をいただきながら、リサイクルを進めていきたいと考えておりますので、どうかご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

**【市長】** このタウンミーティング、今日で72回目になろうかと思うんですけれども、覚えているのは大学がある地区でのごみ分別ですね。ごみのマナーを若いから守らないというんじゃないなくて、どちらかというと、松山市のルールをわかっていないからそのまま出しちゃうということがありまして、市内各地で皆さんがご苦労されながら、ごみを分別してくださっている現状がでございます。本当にご協力に感謝申し上げます。先ほど、大野環境部長が申し上げたんですが、松山市めんどいこと言うなあと思われるかもしれませんが、ペットボトルを出すときですけれども、キャッ



ブとボトルとラベルをはがして別々に出してくださいと言っています。これはちょっと補足をしますけど、汚いまま捨ててしまうとごみですけど、ちゃんと分別して出すとリサイクルの原料として高く買い取ってくれるんですね。ぐじゃぐじゃで出したらお金のかかるただのごみですけど、分別して出すと、逆に松山市にお金が返ってくるんです。今日、皆様からいろいろなご要望いただいて、このタウンミーティングは我々から説明する場じゃなくて、皆さんの声を聞かせていただく場です。こういう経緯で進んでいるんですという説明をさせていただきますけれども、このタウンミーティングは、皆さんからの意見をいただく場です。意見をいただいて、そして検討させていただく。そして、できることからできるだけ早く市政に反映するのが松山市のタウンミーティングです。ですから、これからは皆さんには、意見を言っていただきたいです。ただ、今、国自体が1千兆円の借金を抱えております。仕送りに例えると非常にわかりやすいですけども、国から地方交付税交付金とか国庫支出金というかたちで地方にお金が回ってくるのですが、親元が苦しかったら仕送りが増えるとは考えにくいんです。地方はどこも厳しい財政運営を強いられていきます。少子高齢化はよく聞かれると思いますが、私も高齢化していきますけれども、お世話になっていく割合が高くなって、今日子どもたち来てくれていますが、この子どもたちは将来働いてお金を納めてくれる立場です。その存在が少なくなるのですから、これは財政的にしんどくなるのは自明の理です。限られた財布でやっていかないといけないので、もし行政が何かつくったら、つくって3年くらいで調子悪いからやめましたはできないんです。だから皆さんの声をよく聞かせていただいて、しっかりと検討させていただく。ものをつくったら維持管理費はどの世代が持つのかといたら、20年30年後の子どもたちが維持管理をしないといけないので、やはり子どもたちにツケを残すことはできないですね。ですので、皆さんの声をしっかりと聞かせていただいて、判断をさせていただいたらと思います。ごみのことが1番わかりやすいので最後に言わせていただくと、ごみを出します。一般にごみは燃やしますからごみを収集する人が要ります。ごみ収集車も要ります。ごみは焼却施設に持っていきます。皆さんのご協力で松山市は7年連続でごみの少ないまちなんです。皆さんのご協力のおかげです。ごみが少なかったら、ごみを収集する人の数も少なくできる。ごみ収集車も少なくできる。ごみ焼却施設は多くのお金使って建てますけれども、ごみ焼却施設も長持ちするんです。限られたお財布の中でやっていかないといけないですから、節約できたら教育とか福祉の政策的な経費にお金を持っていけるんです。今、皆さんにいろいろとご協力をいただいて7年連

続で松山市はごみの少ないまちになっています。皆様のご協力のおかげです。今、2位との差が1円玉2枚分に迫ってきております。ご家庭で水切りするだけで減量化できます。また、リサイクルできるものはリサイクルに回していただいたら、ぐっと量が減るんですけども、冒頭申し上げたように、市としてできること、皆さんができること、市と皆さんが協力してできること、それぞれがありますので、お願いするところもあるんですけども、またご協力をいただいて、いい松山を、いい小野を、将来の子どもたちに残せていければと思いますので、これからもご理解ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。今日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

— 了 —